

西宮えびす



平成二十三年新春号

諸国探訪／志津川西宮神社
十日えびす
祈祷殿竣成

えびす NISHINOMIYA EBISU 平成二十三年新春号

西宮えびす 平成二十三年新春号(通巻第三十四号) 平成二十二年十二月一日 発行
発行／西宮神社 TEL:0798-330321 FAX:0798-330321 兵庫県西宮市社家町1-17 電話:0798-330321 FAX:0798-330321

編集／文化課 印刷／小西印刷所

「仕事安泰守」 新春より授与

当社の主祭神であるえびす様は大漁満足・海上安全の神様として漁師さんたちを中心に民衆に篤い崇敬を仰いでおりました。時代は流れ、室町時代頃になると漁師さんたちは釣った魚を市などで売って生計を立てるようになりそれに伴い「えびす様も商売繁盛の神様としても崇められるようになります。」



このようにえびす様への信仰はその時代時代で人々の生活と密接に関係し信仰の形を変えていきました。そこで働く人々の心を支えてきたえびす様のご神徳をうけられえびす様のように福々しい笑顔でお過ごしになりますよう「仕事安泰守」を授与します。

旬祭参列のごあんない

毎月一日、十日、二十日、当社では国家の安泰、皇室弥栄、そして皆様のご繁栄をお祈りするお祭りを挙げており、どの参列でも参列できます。ご参列の際には遠慮なく拝殿にお入り下さい。ご参列の方には神職の講話の後、境内にあるお休み処「おかげ茶屋」でお使いいただけるお茶券をお渡しいたします。また毎月十日にはかわいい千支の置物もお渡しします。

西宮神社記念切手発売

本殿復興五十年を記念して西宮神社記念切手を発売。



切手1200円

西宮、芦屋市内の郵便局で十二月二十四日より発売します。また十日えびすには臨時販売所が出店予定。どうぞお求めください。

参拝のごあんない

○電車でお越しの方
阪神本線「西宮駅」より徒歩五分
JR神戸線「さくら夙川駅」より南東へ徒歩八分
阪急神戸線「夙川駅」より南東へ徒歩十五分

○バスでお越しの方
阪神・阪急バス「西宮戎」または「阪神西宮」下車すぐ

○車でお越しの方
神戸方面から(上り)
阪神高速神戸線
西宮出口降りてすぐ
大阪方面から(下り)
阪神高速神戸線
武庫川出口降りて五分
戎前交差点右折すぐ



※正月十日えびす期間中は境内駐車場がご利用いただけません。近隣の方の迷惑になるので路上駐車はご遠慮ください。神社では電車バスでの参拝をお願いしております。また十日えびす期間中は臨時バスも運行します。詳しくは「西宮神社携帯サイト」をご覧ください。

携帯サイト配信中

当社ではより円滑な情報伝達をと携帯サイトにて情報を配信中です。行事案内、正月、十日えびす期間中の交

通規制情報、「開門神事福男選び」情報などをリアルタイムでご覧いただけます。参拝の際はご参考ください。
○西宮神社・携帯電話サイトアドレス
<http://www.nishinomiya-ebisu.com>



編集室から

●本殿復興五十年境内整備事業も順調に進み、五月には仮殿遷座祭が行われ、えびす様には本殿西の神輿殿へとお遷りいただきます。祈祷殿工事中は神池の周りにはバリケードが築かれ、子どもたちが神池にいる亀や鯉にえさをやる姿も見られなくなりました。毎日日本殿や末社にも熱心に参拝されていた方々も神池の中に鎮座する末社に参拝出来ずに嘆かれています。お姿も見えなくなりました。これからも九月までは境内は工事中にて騒がしくなります。その為、参拝者の方々にはご迷惑をおかけしておりますが、本殿遷座祭の後には、ご神威も新たに蘇った西宮神社へご参拝していただき、ご神慮をお慰めくださいますようお願い申し上げます。

本殿復興五十年の年を迎えて

西宮神社宮司 吉井 良昭

謹みて皇室の弥栄を壽ぎ奉りますとともに、氏子、各議員そしてご崇敬の皆様方の益々のご繁栄をこころよりお祈り申し上げます。

昭和二十年八月五日の深夜から六日早晩にかけての阪神大空襲により烏有に帰した当社本殿は、戦後の厳しい情勢の中にもかかわらず、地元を始め各地のご信仰の方々のご浄財、お支えをもちまして、昭和三十六年の秋、以前と全く変わらぬ規模の本殿を再興することができました。

それより歳月を重ねて、本年五十年目の秋を迎えることとなります。

この大きな節目を記念致しまして、「本殿復興五十年記念境内整備事業」(平成二十二年度〜同二十三年度)を計画致しましたところ、早速にもこころのこもったご奉賛を各方面より賜り、衷心より厚く御礼を申し上げます。

昨年度の第一期工事は掲載の通り去る十二月に予定通り竣工致しました。引き続き本年は本殿、拜殿の改修に着手致します。更に文化事業として、一つには社務日誌(元禄期)、諸国御神影頒布

関係史料集(江戸期)の刊行を予定しております。これらにより近世のえびす信仰の様子が広く深く研究されることと期待しております。もう一つにはえびす信仰資料展示室を開設致します。ご参拝の後、展示室を御覧いただくことよって歴史的また地理的な観点からえびす信仰を目で、肌で感じ取っていただくことができるようにと考えております。

二月から八月の間は、本拜殿改修工事のためご参拝にご不便をおかけすることとなりますが、復興五十年を期に変わりつつある神社境内にお参りいただき、いつの世にも変わらぬあたたかな福の神えびす大神さまのご神徳にお触れになられますようご案内申し上げます。

九月(予定)には全事業完了の奉告祭を斎行致します。その節には皆様お誘い合わせの上ご参拝を賜りますようお願い申し上げます。

本殿復興五十年、このめでたき年をえびす大神さまとともに迎えに生まれ、益々福多き年でありますようお祈り申し上げます。



表紙・引札原画「えびす大黒が藻を刈る(もおかる・儲かる)の図」

年末年始行事ごあんない

煤払い

十二月二十七日(月)午前十時 於本拜殿

新しい年を迎えるにあたり、この一年間の本殿のほこりをおとす年末恒例の煤払いを行います。午前十時から本殿で今年の無事安泰を感謝するおまつりを斎行した後、神職が白衣・白袴で本殿の隅々まで特製の笹竹で作ったはたきなどを使って清めます。



本殿煤払い

大祓式

十二月三十一日(金)午後四時 於拜殿前

大祓詞(おほはらえのことば)を奏上し、今年一年知らず知らずのうち身に付いた罪穢れを祓い、さらに穢れを人形に移し、心身を祓い清めます。どなた様でもご参列になれます。どうぞお参り下さい。



大祓詞奏上

除夜祭

十二月三十一日(金)午後六時 於本殿

今年一年の無事をえびす様に感謝し、来る年が良い年になりますようにとご祈願します。

歳旦祭

一月一日(土)午前六時 於本殿

新年を祝い、国の隆昌と皇室の弥栄、氏子崇敬者の繁栄を祈ります。

奉射事始祭

一月二日(日)午前十時 於本殿及び西広場

えびす様に弓術奉納を奉告する祭典を斎行したのち、西宮市弓道協会により本殿西広場に於いて悪霊払いに力があるとされる籾矢(かぶらや)が放たれ、続いて会員により、次々と弓術が奉納されます。



奉射事始祭

元始祭

一月三日(月)午前九時半 於本殿

年頭に当たり、皇国の始の大元を言祝ぎ、天壤無窮を祈念します。

百太夫神社祭

一月五日(水)午前十二時 於西宮神社末社百太夫神社

人形遣いの祖神、百太夫神をまつる境内末社百太夫神社で祭典が執り行われます。えびす様の信仰が今日のように全国に広まったのは、室町時代以降西宮の散所村(現在の西宮市産所町)に住んでいた人形遣い達が、人形操りをし、えびす様のご神徳を全国に広めた事が大きな要因の一つだと考えられております。この人形遣い達は江戸時代になると西宮を離れ淡路島に移って行き、現在は国の重要無形文化財に指定されている淡路島の人形浄瑠璃や大阪の文楽になったと言われています。一月五日は祭典に引き続き関係の深い淡路島や阿波から「えびす舞」の奉納がある他、祭典に先立ち午前十時より西宮中央商店街にて伝統的なえびす舞等が奉納される予定です。

※奉納行事の日程・場所等は決定次第、携帯サイトにて配信します。



商店街で門付



「阿波木偶廻しを復活する会」によるえびす舞奉納

十日えびす

平成二十三年一月九日(日)・十日(祝)・十一日(火)



招福大まぐろ奉納式

八日 午前九時半頃



福の神・商売繁昌の神様としておまつりされるえびす様は、豊漁を願う漁師の方々にも深く信仰されており、昭和四十四年神戸東部中央卸売市場が開設されたのを機にえびす様に豊漁を願い、魚を奉納することが提案され、翌年日本人好みで大きな魚ということで初めてまぐろと鯛が奉納されました。本殿に供えるには大きすぎるので拜殿に供えたところ参拝者の方が貨幣を貼り付け祈願したことからブームは広がり、今では毎年数万枚の貨幣が貼り付けられます。また三年前からは青果部の方々から野菜や果物が奉納され更に参拝者の注目が集まっています。昨年は青果部の方々よりえびす様と縁深い二股だいがんが奉納されました。



拜殿前逆さ門松(三田分社奉納)

九日 恵えびす

有馬温泉献湯式 午後二時



有馬温泉献湯式

日本最古の名湯として知られる有馬温泉から金泉(きんせん)が奉納され有馬温泉の繁栄と旅館組合の商売繁盛が祈願されます。

午後四時 十日えびす宵宮祭

新春ご祈願の受付

正月十日えびす期間は特別に本殿にご昇殿いただいてご祈禱奉仕致します。えびす様の御神徳をお受けになられますよう新春のご祈禱をお勧めいたします。

◎新春祈禱受付時間

- 一月一日 午前〇時～午後六時
- 二・三日 午前九時～午後六時
- 九日 午前八時～午後十二時
- 十日 午前六時～午後十二時
- 十一日 午前八時～午後十二時

※元旦にご祈禱に来られた方には特別に**干支の土鈴**を差し上げます。また、正月十日えびす期間にご祈禱を受けられた方には西宮神社会館でご休憩いただける「お茶券」をお渡し致します。

西宮の町では十日えびすの前夜、忌籠りの晩に田楽と脛を食し、静かに過ごす習慣があったようです。これを偲び、当社では一月十日、「お茶券」を持って神社会館に来られた方に「田楽」を召し上げて頂いております。まだ試行段階で数も限られていますが、お立ち寄りください。

まぐろや鯛、二股だいがんの奉納



二股だいがんとえべっさん

昔、えびす様が空腹で耐えかねているとき、村はずれの小川で娘がだいがん洗いをしているのに出あった。「空腹で困っているのだから、こんを一本譲ってくれまいか」とたずねたところ、娘は「この主人は厳しい人で本数をかぞえているのでお譲りできないですけど、ここにある二股だいがんなら割ってさしあげます」と差し上げたところえびす様は喜んで、「今後二股だいがんを

供えれば豊作にする」といったそうなの…。

えびす様は農業神としても崇められており、地方によってはえびす様に二股だいがんを供え豊作を祈願する地方が多くあります。この絵は昔の引札でえびす様が二股だいがんを背負っています。このように青果部の方々が奉納された二股だいがんはえびす様にとても縁深い野菜なのです。



青物乾物商の引札

十日 本えびす

十日えびす大祭 午前四時

本えびすの十日、神社のすべての門が開ざれた中で、神職は居籠りし、早暁の祭典に備えます。この居籠りとは、祭典を行う前に身体を清める為に行うもので、古く鎌倉時代の記録にも残されています。

開門神事福男選び 午前六時



開門神事福男選び



平成22年福男

十日えびす大祭が終了し、午前六時に表大門(おもてだもん)通称赤門の前に待っていた参拝者は一番福を直指して約230メートル離れた本殿に「走り参り」をします。本殿へ到着した順に一番から三番までがその年の「福男」に認定され、「福男」には認定証・御神像・副賞として特別な半被が授与されます。

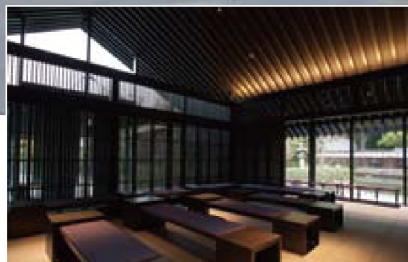
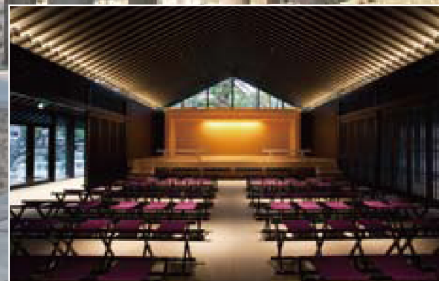
十一日 残り福

残り福の十一日も終日、約六百軒の屋台なども出て賑います。

「本殿復興五十年境内整備事業」

進捗状況

祈禱殿竣工 神池改修工事完工



昭和二十年、先の大戦の連合国軍の空襲で烏有に帰した旧国宝の本殿は、昭和三十六年十一月、元の姿のままに麗しく復興されました。これより数えて平成二十三年は五十周年を迎えますので、吉例に倣い、本殿・拝殿の修復を行ない、併せて新しき時代に相応しい祈禱殿の建設や神池の整備浄化をはじめとする各種記念事業を計画致し工事を進めてまいりました。

この度、平成二十二年予定分の祈禱殿が竣工、お池の護岸、浚渫工事も同時に完工し、十二月八日に竣工祭を斎行いたしました。「正月十日えびす」の明けた二月半ば過ぎより新しい祈禱殿で新たな御祈禱が執り行われる事となります。二月頃からは、本殿、拝殿の改修などが始まる予定です。

■記念事業に関する今後の祭儀
 仮殿遷座祭 平成二十三年五月
 本殿遷座祭 平成二十三年九月 予定

えびす信仰資料について

西宮神社は全国に約三千ある蛭子神を祭る神社の総本社ですが、えびす様は社殿に正式に祭られているほか、漁港や街角、屋敷の祠、家々の神棚などにお祭りされており、国民生活の中に息づいた信仰の証として、今でも、えびす様をかたどった土人形やお面、土鈴、絵などが造り続けられています。いわゆる骨董品ではなく、生きた民芸品を中心に、まだ僅か450点ほどですが、全国各地の「えびす様」をご覧頂ける様、社務所一階にえびす信仰資料展示室を新たに設けます。また、公式ホームページを開設するに当りこの資料を公開します。

1. 資料点数 / 451点
2. 資料分類 /
 - ・えびす像 71点(土人形29点 木像11点 陶磁器神像10点 他)
 - ・神社授与品 113点(神符守札32点 絵馬20点 御神影18点 他)
 - ・縁起物 20点
 - ・工芸品 105点(土鈴32点 お面29点 器物18点 他)
 - ・絵画 39点(巻物25点 他)
 - ・酒類食品類 17点
 - ・書籍雑誌書簡 16点
 - ・引き札、ポスター チラン等 19点
 - ・他
3. 公開日時 / 平成23年1月中旬から
原則として毎日午前9時から午後4時まで
4. 展示場所 / 西宮神社社務所一階「えびす信仰資料展示室」



南三陸町

宮城県

志津川西宮神社

〔鎮座地〕宮城県本吉郡南三陸町志津川字天王山

宮司 工藤 祐允氏

私のご奉仕する西宮神社は三陸海岸景勝の地、南三陸町志津川の町が一望できる東山の高台にあります。下は公園になっていて、明治三十三年五月十日の皇太子明宮嘉仁殿下(大正天皇)御結婚奉祝記念事業として造られました。

す。二番を唱和し御神酒を飲み干します。御幣の向きを変えて、平瓦を交換し、講長さんが御神酒を注ぎ、三番を唱和し御神酒を飲み干します。その後で、講長さんが神饌の水器に塩を入れ、「お火を上げます」と唱え、火を付けた二本

が傾いたと伝えられ、各地を経て、再び志津川の山本家に勧請安置されました。山本家が仙台に移住するに至り、志津川本浜町の漁師仲間恵比寿講を創設、御神像を拝受し、大正七年十月二十日、東山の西宮神社に合祀され、川村家が別当として神社を護持してきました。

十月二十日、恵比寿講の講員さんが中心になって斎行されます。神社での祭典が終わると講員の当前さんの家で神事があり、次期当前さんへの受取り渡しの式が行われます。神棚の前に事代主大神、大國主大神のお軸を掛け、机の正面に宮形に入った一寸五分程の金の恵比寿、大國の御神像を祀り、その前に本幣と称している二本立ての幣を置き、神饌は二重の餅、御神酒の入った二対の瓶子、腹合わせの二尾の魚、塩、水、一椀の「おぼき」と称されるご飯です。受け取り渡しの式は講長さんが中を取り持ち、送り当前と受け当前が間にお盆に載せた御幣を置き、謡曲「四海波」で始まります。



志津川西宮神社



平成二十二年六月、御本社の吉井良昭宮司様が東北の各地の恵比寿講を調査に来られ、二十四日、志津川にお見えになり、別当川村家に残されている古文書や御本社の御札頒布認許状等を、覧になられました。その時、この御神像の経緯を講長さんがお話申し上げましたところ、吉井宮司様から、神様は「和御魂」(柔和な徳を備えた神霊)と「荒御魂」(荒く猛き神霊)をお持ちですから、各地の家に安置された時は「荒御魂」になり、志津川に戻った時から「和御魂」になったのでしようとお話を聴かせていただきました。恵比寿講が結成されてから九十有余年の長きに亘って受け継いで来られた先人に感謝するとともに、これからの護持に努めたいと思います。

一番を唱和して、講長さんが両人と自分の前にある平瓦(杯)に御神酒を注ぎ、口を付けま

のマッチ棒を入れ講員は拍します。続いて神饌のおぼきを講員が一口ずつ頂き、御神酒を頂いて式は終わり、場所を変えて直会をします。この御神像には謂われがあつて、次々と他の地方の家の手に渡り、この家は家運

に亘って受け継いで来られた先人に感謝するとともに、これからの護持に努めたいと思います。



殿様 二度の御社参

青山播磨守様 四月に続き六月にも

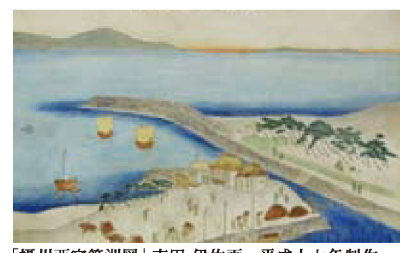
四月五日朝六つ半(午前七時頃)に播磨守様御社参。神主宮内は紅衣冠にて神前着座。社家・祝子は布衣・烏帽子で手洗石に出る。拜殿にて御神拝遊ばされる。明日明六つに供御を頂戴されるので御供と巻数を持参するように尼崎寺社方から仰せられる。五日晚方に御祈禱を執行し夜中に宮内が尼崎へ赴く。六日朝、播磨守様の御前へ進み、御祈禱巻数、御供、御神酒を献上。続いて六月二十一日にも御社参。特に「御宮中ノ掃除等キレイ成由」仰せられ、一同恐悦する。

京都御伝奏白川様へ 御火難見舞い

白川様が御火難に逢われ、御支配の神社からお見舞いが届いているようなので、四月十八日に中村治部が白川様を訪れ、白銀二枚を献上する。白川中将様は加茂葵の御神祭の勅使との由。

船持衆中より 大船無事の御礼 大風の被害なし

先頃の大風で所々の大きな船は破損したが、当地では無事であつたので御冥恩として夷、南宮両社に供御を献じたいと船持衆中より申し出がある。七月十八日、願主は雑喉屋新十郎父子、御供料十二匁宛で御膳を各六膳献備する。



〔根州西宮築洲図〕吉田 伊佐画 平成十七年制作

来春の公儀御祈禱 についてお尋ね

今年一月に將軍綱吉公が亡くなられ、御代替の来春の御年礼をどうするのか、御陣屋より神主方へお尋ねがある。江戸へは毎年参府していたが、元禄十六年より隔年毎となり、来春は参府しない年だと回答。また十二月一日から江戸で綱吉公の御法事があるので、これに重ならないよう本年の公儀御祈禱は例年より早めて十二月二十一日から七日間執行する。

(参考) 徳川綱吉 五代將軍。將軍宣下は延宝八年(一六八〇)。宝永六年一月没。記事中「御代替」とは綱吉から六代將軍家宣への代替を指す。青山播磨守 青山家として四代目尼崎藩主幸督(よしまさ)。藩主を襲封したのは貞享元年(一六八四)。宝永七年八月没。公儀年頭御礼 元禄十六年に毎年隔年毎に、享保十六年には隔年から四年目毎に、江戸へ出府登城するようにと変更された。

えびす瓦版

時の西宮神社社用日誌をひもとく「えびす瓦版」。今号は宝永六年(西暦一七〇九)に記された社用日誌です。



- 神主 吉井宮内長信
- 社家 中村治部(上意)
- 氏子 田村惣左衛門
- 大森善五右衛門
- 東向刑部(上意)
- 鷹羽源次郎(中意)
- 神子 太郎左衛門、九左衛門
- 源兵衛、長右衛門
- 祝子 大森惣右衛門
- 廣瀬善次郎
- 神子 中野次右衛門
- 辻勘右衛門
- 七右衛門
- 同小左衛門

全国講社関係御参拝

(平成二十二年四月～九月)

当社の主祭神であるえびす様は全国より篤い崇敬を仰いでおります。ここでは講社関係御参拝の方々を紹介しております。

四月～九月

- 四月三日 石川県 宇出津定置漁業組合行
- 四月十日 佐賀県 佐賀恵比須会行
- 五月二十七日 三重県 佐々神社御分霊に来社
- 六月六日 滋賀県 西宮神社一行
- 六月十六日 兵庫県 市島恵比須神社一行
- 七月十日 兵庫県 新海水産一行
- 七月三十日 佐賀県 佐賀恵比須会行
- 八月一日 石川県 小浦羽根大敷網組合行
- 八月二日 石川県 宇出津定置漁業組合行
- 九月十一日 静岡県 沢水加西宮神社行
- 九月十五日 兵庫県 川原蛭子神社行
- 九月二十九日 東京都 大島神社二行御分霊に来社

神楽祭御参列

諸国講社太々神楽祭 (五月六日)

- 岐阜県 明智西宮恵美寿神社一行
- 大阪府 岸城神社一行
- 京都府 恵比須神社一行
- 大阪府 高槻えびす講一行
- 石川県 西宮神社一行
- 静岡県 焼津西宮神社一行
- 大阪府 尾崎戎神社一行
- 高知県 高知八幡宮一行
- 兵庫県 成松蛭子神社一行
- 兵庫県 水道筋えびす講一行
- 高知県 潮江天満宮一行
- 高知県 高知十日えびすの会一行
- 群馬県 桐生西宮神社一行
- 兵庫県 西宮神社三田分社一行
- 岐阜県 中津川西宮神社一行

本えびす講社太々神楽祭 (五月十日)

- 東京都 東京えびす講一行
- 佐賀県 佐賀恵比須会一行
- 長野県 須坂西宮神社一行
- 愛媛県 松木恵比須講一行
- 兵庫県 出雲大社阪丹講社一行
- 愛媛県 榎瑞高丸西宮神社一行
- 愛媛県 弘徳会一行
- 岡山県 神縁の会一行



日供講社太々神楽祭 (五月四日)

以下御芳名略 三四八名御参列
御芳名略 一九八名御参列

着ぐるみ三体系列



子供たちに御神火を渡す着ぐるみ達

夏祭、えびす万燈籠祭に、神戸市灘区水道筋商店街の「汗かきえびす」、三田分社のある兵庫県三田市の市民グループ「さしすせそ」の「えべっちゃん」、西宮中央商店街の「ふくみ福ちゃん」三体系列の着ぐるみが奉仕しました。「汗かきえびす」は平成十九年、関西アメリカンフットボール協会が拠点を王子スタジアムに移設したことに際し、スタジアムと地元商店街を盛り上げる為に作成され、アメフトのユニホームを着ています。「えべっちゃん」は作成の時期は一番新しく、今年の七月十七日に三田市立三田小学校で行われた「七よまつり」でデビュー。地元の特産である三田牛に乗り、タイ焼きを小脇に抱えています。「ふくみ福ちゃん」は西宮中央商店街で青果店を営む山本さんが「何か盛り上げるもの」と作成。五月の「西宮太々神楽祭」で名前を応募、六月十四日の「おこしや祭」の日に商店街で発表し、デビューしました。いずれも地元の行事などでは活躍していますが、このように三体系列の着ぐるみが初めて。午前中の夏祭に続いて午後六時より行われた「えびす万燈籠祭」では御神火を移した提灯を子供たちに渡すお手伝いをしてもらい、子供たちもとても喜んでいました。これからも交流を増やし、地域の発展と共に、えびす様の御神徳も全国へと広めていって頂きたいと思っております。



(左から)えべっちゃん、汗かきえびす、ふくみ福ちゃん

「本殿復興五十年境内整備事業」ご奉賛者名簿

左記の方々より「奉賛のお申し込みを賜りました。ここに「芳名を録し、厚く御礼申し上げます。

(平成二十二年五月～十月現在五十音順敬称略)

◎一千万円

東京えびす講本体

◎八百八十八万円

半田家7代目 半田 晴久

◎五百万円

辰馬 章夫

◎三百万円以上

阪神米穀(株)
(宗)みろく愛光会

前号でご紹介のご芳名に誤りがありました。お詫びを申し上げます。改めてご紹介致します。



◎百万円以上

アサヒビール(株)

(株)アルカディア

(株)石常竹田石材店

大阪第一招福組

河内 昭男

桐生西宮神社

小上馬 良一

(株)近藤衣裳店

酒井 逸雄・百合子

サッポロビール(株)

(株)スエヒロ衣裳店

鈴木油脂工業(株)

武田 實・和子

辰馬 朱満子

辰馬 真澄

谷矢製餡(株)

(株)東京竹葉亭

(有)長崎写真場

(株)ピカソ化学研究所

本野田酒造(株)

(株)ヤマサ環境エンジニアリング

渡辺 晶子

渡辺 和幸

◎十万円以上

大関(株)

大谷 整一

神野 道人

蕪木 幸治

北山酒造(株)

黒木 浩司

國産酒造(株)

阪口 昌弘・正

坂本 裕

樟風会

(株)深秀園

すが歯科医院

(株)田中木材商店

東福鍛工(株)

中野 幸一良

永水 宏和

浪田 ウノ子

西宮講社松本事務所

西宮食糧(株)

日本盛(株)

丹羽商店

白鷹(株)

廣岡 貴之

松本 三子代

村山 隆太郎

吉井 貞俊

吉井 良邦

◎二万円以上

青木 伯夫

石川 義雄

新井 義史

石川 武美

新井 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

石川 武美

◎一万円未満

東 健一

引 久美子

平 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

廣 昭夫

◎一万円未満

一九一名の方々